

医療従事者からの相談により副作用の重篤化を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、医療従事者からの相談を受けることによって副作用の重篤化を回避した事例を紹介いたします。

患者背景

声門癌・食道癌に対し、抗がん剤・放射線療法施行中の患者

【投与中の薬剤】
アービタックス®注射液 100mg

S さん



看護師

アービタックス投与中の S さんですが、にきびや発疹のような皮膚症状が出ているようなんです。どうしたらよいでしょうか？

そうですね。アービタックスの副作用の可能性が高いので、ステロイドの外用剤で対処するのがいいと思います。



S さんの皮膚症状はどこにできていますか？

症状は、顔と前胸部などの体幹部にできています。



薬剤師

アービタックス投与中の S さんの皮膚症状に対して、ステロイド外用剤の使用はどのようにでしょうか？
体幹部には very strong クラスのベタメタゾン、顔には体幹部よりも吸収がよい※ので medium クラスのロコイドがよいと思います。

※参考：月刊薬事 2016 年 Vol.58 No.10 ステロイド療法のエッセンス



医師

重症化を防ぐためには早めの対処が必要ですね。早速処方しておきます。



処方されたステロイド外用剤の塗布により、皮膚症状は改善され、アービタックスの投与を継続することができた。